

## GSMaP\_NOW/NRT 雨量計補正のシステム開発と異常降水モニタリングへの応用

田島知子<sup>1</sup>, 久保田拓志<sup>1</sup>, 沖理子<sup>1</sup>, 牛尾知雄<sup>2</sup>, 妻鹿友昭<sup>2</sup>

(1: JAXA/EORC, 2: 首都大学東京)

### 要旨

衛星全球降水マップ (GSMaP) プロダクトには、観測時刻に提供するリアルタイム版 (GSMaP\_NOW)、観測から 4 時間遅れで提供する準リアルタイム版 (GSMaP\_NRT)、観測から約 3 日後に提供する標準版 (GSMaP\_MVK) がある。中でも、提供時間が早く降水モニタリングに利用できるリアルタイム版と準リアルタイム版は、ユーザの利用頻度が高いプロダクトである。標準版にくらべて精度が劣るものの、準リアルタイム雨量計補正アルゴリズム (Mega et al., 2019) を適用し、標準雨量計補正データ (GSMaP\_Gauge) を用いてバイアスを補正することで精度は向上する。今回、最新アルゴリズムバージョン (GSMaP v7) から採用されているこの手法を、GSMaP v7 とともに 2 世代提供されている GSMaP v6 に適用し、準リアルタイム雨量計補正データ (GSMaP\_Gauge\_NRT v6) とリアルタイム雨量計補正データの定常処理システムを構築した。前者は、2000 年 4 月以降のデータセットとして 2018 年 12 月に公開され、後者は近日中の公開を予定している。

本発表では、GSMaP\_Gauge\_NRT v6 の長期データセットから算出したパーセンタイル値による異常多雨と Standardized Precipitation Index (SPI) による干ばつの検出状況について報告し、この取組みが実装されている WMO 主導のプロジェクト Operational Space-based Monitoring of Weather and Climate Extremes (SWCEM) についてご紹介する。また、準リアルタイム雨量計補正アルゴリズムの問題点を改善したリアルタイム雨量計補正アルゴリズムの開発と、大幅な過大推定が指摘されている GSMaP\_NOW が補正によりどの程度改善するかについてもご報告する。